

愛労連

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町 8-18

労働会館第2ビル

TEL 052-871-5433

発行人 伊藤 むつを

5月号 1995年 5月31日

愛労連第13回定期大会

1日目/9月2日(土) AM 10:00~

2日目/9月3日(日) AM 10:00~



名勤生協労組は、はじめての指名ストライキに突入!

生活要求でたたかいぬく中で 要求に確信と団結!

協生勤名
名勤生協

「セ・パ共同」で前進 働く権利はパートも正規も同じ

生協労連名勤生協労組では、経営側である理事会の不況を理由にした「定昇のみ」という回答をばねのけ、組織拡大でも前進しています。

消費不況で生協組合員の

利用も減っている上に、価格破壊の影響で同じ数だけの注文があっても、供給の「売り上げ」は少なくなっているのが今年の商業に共通している厳しさです。

名勤生協では、労働組合の三万円の要求に、理事会は「収入(供給)が減れば支出(経費)も減らさなくては」と定期昇給に毛のほえた程度の六千五百円の回答でした。

これに対し団体交渉では「生協の商品が価格破壊でも、家賃や学校の授業料の価格破壊なんて聞いたことがない」「生活が厳しいからといって中電が電気代を安くしてくれるわけではなく、公団の家賃値上げで五千元も上がった」など、生活実態の報告が相次ぎました。また、パートさんからも「私の給料で子供を学

校に行かせているようなもの、余裕で働いてきているんじゃない。ご主人の収入とパートの収入をあわせて生活費なんだとつめよりました。

こうして、三万円の要求がアンケートの平均であるというだけでなく、みんなが本当に三万円の賃上げが必要なんだと確信を深めることができました。

五月十四日には、名勤生協労組で初めての指名ストライキに突入。さらに十九日には百七十名が参加しての深夜までの団体交渉で、



やつと正規と五百円、パートと一・五円の上乗せを獲得しました。要求額に比べればずいぶん低い妥結ですが、生活要求でたたかうなかで要求への確信も団結も強められました。

いま、パートの雇用不安が広がっていますが、生協労連では「働く権利はパートも正規も同じ」と「セ・パ共同」を合言葉にたたかいをすすめています。名勤生協労組では、春闘の間にも多くのパートさんが労組に加入し、この四月にはパートの組合員が五百人を越えて、正規とあわせて一千人を越える組織へと前進しています。

首切りを許さないたたかいを

職場・地域から創造的に!

全労連は「解雇を規制し、雇用・失業対策の改善を求める」四項目の署名運動を全国的に始めています。

愛労連もこの署名目標を二十万とし、五月九日の「署名運動開始学習決起集会」から運動を始めました。

全労連が、この署名運動を始めたのは、円高を口実にした大企業のリストラ・「合理化」によって、昨年一年間に解雇・事実上解雇された労働者は数百万人。こうした深刻な失業・雇用不安を起している大企業と政府の責任は重大。国民的な運動と世論で雇用を守ろうということからです。

愛知の雇用・失業状況も

署名
解雇

たたかいの柱に 愛労連幹事会が訴え

つい数年前まで、「金の卵」といわれていた高卒者は就職浪人が出るありさま。大企業で働く労働者は、リストラ・人べらし「合理化」のもとで、希望退職せまね。

面的見直しをはじめます。利益を確保するためには、労働者の働く権利を脅かし、使いつける。こんな大企業の横暴は絶対に許せません。



5/11から行われた東海・北陸キャラバン

解雇規制署名 愛知で20万をやりぬこう

解雇を規制し、雇用を守るたたかいは、ますます重要となっています。この署名をまきおこしましょう。

結成から2カ月で倍化! 運輸一般 組織拡大で前進

四月三日、運輸一般名北合同支部に二つ目の分会が誕生し、結成時十名だった組合員は二カ月で倍加。「早く過半数を」とはりきっています。

ここでは、有給休暇の付与日数が八日しかなく、取得するには十日前の届出が義務づけられていたり、社会保険料が実際に給料から差し引かれていた額より低い額で社会保険事務所に納められているなど日常的に法律違反が行われていました。組合結成後、問題は

基本的には解決し、職場集会を開く度に組合員が増えるという楽しい分会です。

また、五月十五日には名鉄運輸支部で三名が「連合」労組から運輸一般へ加入し、その後の執ような脱退工作にも負けずに頑張っています。さらに、白杵運送支部でも二名の組合員から一挙に十一名に拡大しています。

運輸一般では、六月末までの組織拡大月間期間中に大きく前進しようとして奮闘しています。

みんなでワイワイやらまいか Summer Carnival '95 in HAMAMATSU (8/26~28)

すでに愛知でも、県実行委員会が結成され企画に準備にとワイワイガヤガヤ元気がいっぱい。一宮では「プレ企画をやつて、地域で青年の輪をつくらう」と地域労連と相談しながら地域実行委員会が準備されていま



みんなの“力”を

大募集

サマカニはみんなが主人公、スタッフ募集

すでに一宮では、地域実行委員会の準備が始まっていますが、県内各地で地域実行委員会が予定されています。スタッフには誰でもなれます。ぜひご参加を！

出たがりバンド募集！

さあ、君も4000人のステージに！
ポップスコンテスト（8/26）
募集要項①バンドなど形態は自由
②カセットテープに録音して6月末日までに下記まで申し込みを！

3000人の野外企画募集

企画採用の方には、なんとサマカニにご招待！実行委員会では、3000人仲間が体を動かして一体感をえられる野外企画を募集。
6月20日必着で下記まで！

申し込み・問い合わせ先

・愛労連事務局（竹内）まで ☎052-871-5433
・住所 〒456 名古屋市熱田区沢下町8-15 労働会館第2ビル

夏は「サマカニ」で決まり！！

いよいよサマーカーニバル（略サマカニ）が近づいてきました。サマカニとは産業や組合のちがいをこえて、若い仲間が全国からドーンと四〇〇〇人集まるといふ交流祭典です。これまで、医労連や国公労連、JMIUに自治労連などが行ってきましたが、全労連規模ははじめてです。

すに愛知でも、県実行委員会が結成され企画に準備にとワイワイガヤガヤ元気がいっぱい。一宮では「プレ企画をやつて、地域で青年の輪をつくらう」と地域労連と相談しながら地域実行委員会が準備されていま

楽しい企画でいっぱい



10万筆突破で、社保協が記者発表

「高齢者福祉10大要求」署名が10万筆を突破。署名には「嫁の努めと耐えてきた」「県と市町村あわせて（介護手当が）月十万円あればパートをやめてもやっていける」など切実な願いが込められています。いま、東京都の介護手当は月五万三千円ですが、愛知県はわずか月七千二百円です。「あんきに暮らせるまち」を求める署名を県・名古屋市の六月議会へむけいっそうすすみましょう。

介護手当を月額5万円に 「高齢者福祉」署名をすすみましょう

6月10日AM10時~12時 名古屋市中区
「アーバンラフ」志賀（公団住宅）で署名宣伝行動

第66回メーデー 愛知県中央メーデーに1万人 県下7地域メーデーに1650人が参加



降りしきる雨をうけて行われた愛知県中央メーデーは、元気よく一万人が参加しデモ行進。デコレーションコンクールでは多彩な作品が持ち寄られました。最優秀賞は名港労協（右側）優秀賞は名水労本庁支部、名水労青年婦人部、名古屋市職労衛生支部、名古屋市職労学校支部、名古屋市職労千種区役所支部、郵産労名古屋南部支部、全国一般ナトコ労組

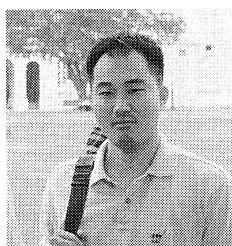


マレーシア・タイ 調査報告 Vol. 4 1994.10.29~11.4

産業空洞化を再認識

JMIU愛知支部アクロス分会

分会長 長谷川英美



私の産業空洞化に対する認識は、円高・製造コスト高などによる海外競争力の低下から、コストを低く抑えられ振興発展途上国であるアジアへ、生産設備を移転することであり、現在それが進んでいるのだと思っています。ところが現地の良い企業への転職が日常茶飯事で、終身雇用というシステムも定着していません。そして、両者の企業も日本人が管理者としていたのが、現地の労働者とのコミュニケーションは、ほとんどないことでした。働きやすい職場を中小企業（とりわけ製造業）においての労働条件は日本でも深刻です。給与・福利厚生などどれをとっても大企業には太刀打ちできないし、少しでも条件の良いところで働きたいのは当然です。しかし中小から出来ること、すべきことがあるはず。きわめて抽象的かもしれませんが、働きやすい職場とは何かを考えると、多量の労働者はよほど劣悪な条件でない限り働きやすい職場を希望するのではないのでしょうか。今後、中小企業の海外進出はさらに進んでいくと言われていますが、低賃金・低コストだけに目を奪われ、労働者の人間性を忘れてしまつては、自殺行為になるような気がします。

進出はさらに 高度な商品生産へ

製造業において叫ばれているなかでの今回の視察は、私にとって問題の深刻さを再認識すると同時に、アジアへ進出した中小企業の実態にも触れることができました。そして、今回の視察では大企業の実態を知ると同時に進出した中小企業も訪問する事ができました。中小企業で働いている私にとっては、少しながらもその実態に触れることができた大変勉強になりました。タイでは鋳物工場と自動車部品製造工場の二社を訪問しましたが、抱えている問題は労働者が定着しないことでした。聞くと、現地の労働者の良い企業への転職が日常茶飯事で、終身雇用というシステムも定着していません。そして、両者の企業も日本人が管理者としていたのが、現地の労働者とのコミュニケーションは、ほとんどないことでした。働きやすい職場を中小企業（とりわけ製造業）においての労働条件は日本でも深刻です。給与・福利厚生などどれをとっても大企業には太刀打ちできないし、少しでも条件の良いところで働きたいのは当然です。しかし中小から出来ること、すべきことがあるはず。きわめて抽象的かもしれませんが、働きやすい職場とは何かを考えると、多量の労働者はよほど劣悪な条件でない限り働きやすい職場を希望するのではないのでしょうか。今後、中小企業の海外進出はさらに進んでいくと言われていますが、低賃金・低コストだけに目を奪われ、労働者の人間性を忘れてしまつては、自殺行為になるような気がします。



進出した日本の自動車部品工場前にて

産され、さらに日本から進出した中小企業からの部品調達も、タイ、マレーシアは日本の大手メーカーの巨大な生産工場となつていました。現在は生産設備もほぼ整い、さらに高度な商品生産に向けて、生産技術の移転の段階のようでした。

働きやすい職場を